

平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

1. テーマ

学習面で特別な教育的ニーズのある子どもの早期支援の在り方についての究明
～多層指導モデルM I Mによる異なる学力層の子どものニーズに対応した指導～

2. 問題意識・提案背景

本市の通級指導教室（小学校2校，中学校1校）に通っている児童生徒は年々増加傾向にあり，発達障がいの可能性のある児童生徒もさらに多く在籍していると考える。

それらの児童生徒に基礎学力をつける基盤として「読みの力」が大きく影響している。小学校第1学年の指導で「特殊音節」を身に付けさせることは重要であり，発達障がいのある子どもにとっては大きな課題の一つである。「特殊音節」につまずくと国語の学習のみでなく，他の学習，さらには，日常生活にまで支障をきたすと言われている。又，つまずきの深刻化に伴い，勉強がわからないことに起因する自尊感情ややる気の低下といった二次的障がいが生じる。

そこで，早期の段階で，子どもがつまずく前，又はつまずきが深刻化する前に，指導・支援を行うプログラム：多層指導モデル（M I M：Multilayer Instruction Model）を取り入れ，3階層（ステージ）に応じた指導により，最終的に全ての子どもの学びを保障していく。

3. 指定校について

指定校名：飯塚市立小学校（全22校）												
学級数及び児童生徒数												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	1181	44	1026	41	1094	44	1095	42	1069	40	1091	41
特別支援学級	14		18		25		15		16		23	
	(知的障害) 19学級 (自閉症・情緒障害) 9学級 (肢体) 2学級											
通級による指導の対象者数	2	2	0	0	5	2	4	2	6	2	6	2
教職員数												
校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	ｽﾎｰﾙｶｰﾃﾞﾗｰ	その他	計		
22	22	314	22	49	0	23	32	0	15	499		

4. 指定校における取組概要

通常の学級において、「読みの力」に関して特別な教育的ニーズのある子どもに対して、MIMの指導を中心に、下記のような理解しやすいよう配慮した授業等、指導方法の工夫改善及び発達支援アドバイザーによる指導助言を通じ、発達障がいの可能性のある児童に対する早期支援を行った。

- (1) 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒を含むすべての児童生徒が理解しやすいよう配慮した授業等、指導方法の改善

ア. 動作化や視覚化による指導

イ. 教材の効果的な活用や教室環境整備

ウ. 補充指導等の学習面での配慮や視覚的・聴覚的な刺激の軽減等の行動面での配慮

エ. アセスメント（チェックテスト）の実施（毎月末）による、配慮を要する児童の把握とその実態に応じた指導

オ. 校内支援体制の整備及び職員研修の実施

- (2) 適切な実態把握等による早期支援の実施

ア. アセスメント（チェックテスト）の実施と個別の配慮の実施

イ. 個別の配慮計画をもとにした授業を通じた交流

ウ. 特別に配慮を要する児童の把握と共通理解

- (3) 発達障害支援アドバイザー（1名）による各小学校での校内研修・教育相談における指導助言（9月～3月…20件）

ア. 通級指導教室での指導を活かした個別の指導や配慮方法についての講話

イ. アセスメント（チェックテスト）で明らかになった早期に支援をする必要のある児童の個別の配慮や指導の在り方についての各校への指導助言

ウ. 実践後の手立ての見直しについての指導助言

エ. 巡回相談の実施

5. 主な成果

本市では、学校の指導体制を整備し、学習面で困難を示す児童生徒に対しての動作化や視覚化を中心とした早期の支援や個に応じた指導を行うことによって、子どもたちの「読みの力」の向上に成果が見られた。

2学期からは、発達障害支援アドバイザーによる各小学校への巡回指導による授業参観及び指導助言を行う中で、指導方法の提案や指導教材の提供などが確実にできるようになってきた。この取り組みがアセスメント（チェックテスト）の結果にもつながり、補足的、集中的、柔軟な形態による特化した指導が必要な児童の割合が30%を超えている学級が5月に44クラス中39クラスあったのに対し2月は全クラス30%未満になっている。

2月実施の読書力診断検査における読書力については、飯塚市立小学校1年生の平均は51.6であり、全国平均50を上回っている。平成25年度1年間MIMの取組を行った2年生についても1年生時の平均51.8から、本年度54.0と大幅に向上している。

これらは、全小学校のM I M指導者を対象に本市教育委員会が研修会を開催するとともに、(独)国立特別支援教育総合研究所の海津亜希子氏に指導を受けながら、M I Mの活用によるP D C Aサイクルに則った特別な教育的ニーズのある子どもへの支援をシステム化し、全市的に取り組んできたことが大きな要因である。さらに、研修会では、各小学校が指導の成果と課題を交流する機会を設けることにより、効果的な指導が全市的に広まっている。

6. 今後の課題と対応

M I Mの取組実施状況について各小学校にばらつきがあり、全ての学校で同じレベルの充実した取組までには至っていない。

チェックテストの処理については、実施後、各学校が教育委員会に提出し、教育委員会が集計処理を行い、完了後、各学校に結果を配付するようにしている。しかし、市内の1年生のすべての得点入力を一人の職員で行っているため、速やかにチェックテストの結果及び個別の配慮計画を返送することはできていない。そのため、個別の配慮計画に沿った支援を開始するまでにタイムラグができてしまっている。各学校が各自で集計処理を行うことで即時支援ができるような方向が望ましい。

近隣小学校によって組織するブロック協議会・ブロック研修会については、平成26年度2学期当初に校長会議で連絡達示をしているが、市教育委員会が設定して実施したのみで、平成26年度中は自主的な開催はまだできていない。平成26年度内に自主的なブロック協議会・研修会の大きな平成27年度計画を立てることができたため、平成27年度は速やかなブロック協議会・研修会の開催が望まれる。

市の取組としての関係機関との連携については、発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業運営委員会で様々な専門家からの意見をいただくことはできているが、学校や子どもたちに直接関わるなどの具体的な取組には至っていない。平成27年度はスクールカウンセラーやビジョントレーニングインストラクター等の活用を具体化していく。

7. 問い合わせ先

組織名：飯塚市教育委員会

- | | |
|-------------|---|
| (1) 担当部署 | 学校教育課 指導係 |
| (2) 所在地 | 〒820-8605 福岡県 飯塚市 忠隈5 2 3 番地 |
| (3) 電話番号 | 0 9 4 8 - 2 2 - 0 3 8 0 |
| (4) FAX 番号 | 0 9 4 8 - 2 9 - 5 4 4 0 |
| (5) メールアドレス | Ed-kyouiku@city.iizuka.lg.jp
k-gouda19@city.iizuka.lg.jp |